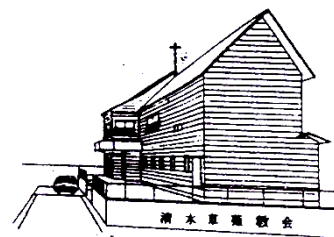


≪今朝の聖書から≫今日の個所は、有名な個所で、出来事だけなら、何があったかそらんじていると思います。東方の博士たちがやってきて、王へロデとは反対に、幼子をメシヤとして受け入れたという出来事です。ずいぶん後になって、この福音書は記されましたが、“夢で告げられ、別の道を通って、博士たちは帰って行った(2:12)”という出来事も、実際にそうだったという博士たちからの聞き取りというよりは、信仰者マタイの“理解”だと考えるのが正しいでしょう。聖書には、歴史的な出来事と交差するように、信仰者である著者の理解が、聖書を実に豊かにしていることに気がみましょう。“三人”の博士と言われますが、捧げられたものが三品だったという記録で、三人ということは記されていません。同じく信仰者が、聖書を何度も何度も理解してゆく教会の歴史の中で、このようになったといえるでしょう。また、その贈物の意味する内容も、エジプト旅行を目前にしていた主の姿をより豊かなものにしてくれるのです。事実とははっきり断言できませんが、信仰者の核心ともいえる理解は、言い伝えられ、私たちの理解をも豊かなものにしてきています。私たちも主にふさわしい出来事を、目の前にしたいものです。星についても、B.C.12年のハレー彗星の接近と合わせて証拠づけようともされてきました。東方のゾロアスター教の司祭たちが、天の動きに神の意志を計り知ろうとしていたから、ともいわれてきましたが、ハレー彗星が一軒の家の上で、と言ったとたんに、以下、説明できなくなってしまうのです。にもかかわらず、確かなことがあります。“マタイはそのように書かざるを得なかった”ということです。それは暗闇からの解放者の姿です。人々の心も描き出しています。彼らはメシヤの到来を喜ばなかったのです。“エルサレムの人々もみな、同様であった(2:3)”と伝えています。旧約聖書に記されたメシヤの出現を、支配者と同じように、警戒してしまいました。私たちも、変革を為政者と同じように、拒むことってないでしょうか。

週報

2008年 12月 28日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp